

2年生学年だより

令和5(2023)年12月22日

第33号

吹田市立第二中学校 第2学年

安心・安全な環境

スズメが電線に止まっています。
よく見る光景ですよ。怖くないのでしょうか？
『落ちたらどうしよう』とかは考えないのでしょうか？

みんなの場合はどうですか？
例えば、体育館の床に引かれた線の上を歩いてみたこと
ありませんか？何も気にせずに歩けますよね。

では、平均台の上はどうでしょう？
器械運動で見たことがあると思いますが、どうですか？
何も気にせずにその上を歩くことはできそうですか？
多分ほとんどの人が『落ちたらどうしよう』と考えて、
心臓がドキドキと緊張し、身体に余計な力が入り、
動きがぎこちなくなり、フラフラしながら歩いている姿が
頭に浮かんだのではないのでしょうか。

やっぱり不安があると、うまく自分が表現できなくなる
可能性が高まるということです。

ひょっとするとスズメには
『落ちたって飛べるから大丈夫！！』という
確固たる安心材料があるのかもしれない。

学校やクラスが安心だと感じてくれている仲間が
いるとして、その安心材料や環境を脅かす可能性がある
発言や行動っていかがなものでしょうか。

もう一度、78期生全員で自分自身や仲間たちの
発言や、行動、安心材料に目を向けていきませんか？

1年生の学年だよりにもこんな内容が載っていました
11月1日に行われた生徒会選挙での会長候補生徒の演説を受けてのものです。

これを書いている先生は、普段はみんなの授業を担当しているわけではありません。
それでも、授業に入っていくたり、廊下に立っていると元気に挨拶をしてくれたり、あたたかい言葉を
かけてくれてみんなから元気をもらうことがよくあります。優しい言葉がけをありがとう、って思う
瞬間が本当にたくさんあります。そうやって人の心をあたたかくするような「ふわふわ」な78期生で
あり続けてほしいなと思っています。



悪気はなかったんだけど

最近、『悪気はなかった』とか『わざとではない』といった言葉をよく聞く気がします。
でも、内容によっては悪気があったとか、なかったとかの話ではないと感じることも多いです。
その発言や行動によって悩みを持ってしまった仲間がいるのなら、それを素直に認めて“ごめん”
の一言を伝えられる。そんな心を持てたら、お互いにもっと素敵な人になれるだろうなって
考えています。大人も子どもも関係なく、78期生、そして二中全員で考えていきたいですね。



こんな状況を経験したことはありませんか？
右側の方は笑っている
でも左側の方の心には何か刺さった
それがプラスのことなのか、マイナスのことなのか
自分の発言や行動がどのように伝わっているか
そこを考えられる、または振り返ることが
できるようになりたいですね

